巻頭言

実りを願い，未来をのぞむ

心理臨床センター副センター長　興　津　真理子

巻頭言を書くにあたり，遡って過去のものをいくつか読み直しました。振り返ると各巻の心理臨床科学が，どのような状況の下で刊行されたのかは巻頭言に映し出されています。そこで今回も少し近況を残しておきたいと思います。

2017年9月15日に公認心理師法が施行され7年が経過しました。日々はあわただしく，学部，大学院の実習に学生を送り出し，巡回指導などの関連業務に追われています。現在，臨床の教員は実習指導担当教員の講習を順に受講しているところでもあり，私も今年受講している一人です。ちなみにこの講習会は一部，実習先の実習指導者の方にも受けることが求められていますのでご協力をお願いしております。こうした状況は公認心理師を養成している大学，大学院であれば，多少の違いはあるにせよ似たり寄ったりでしょう。他の業務に加えてのこれらは決して軽い荷ではありません。臨床心理士と公認心理師両方の養成をおこなっている場合はなおさらで，本学もその一校です。

こうした負担を感じる状況で，教育に携わるわたしたちの気持ちの大きな支えは，大学院生や修了生の成長であり，苦労しながらも彼らが臨床に求めるものを真摯に模索する姿です。実習で得たものを嬉しそうに話す姿や，スーパーヴィジョンを通して感じる臨床実践への熱，研究にまつわる試行錯誤，修了後にきかせてくれる現場での奮闘，それらに触れるとき，彼らの手にする実りは私たちの喜びでもあり，明日の教育の原動力になっていると感じます。また，こうして後進が育つことは，今後，心理職の重要性がより広く認識されていく第一歩になっていくものと信じています。

この心理臨床科学に納められている大学院生の執筆した論文も，そうした彼らの成果のひとつです。それぞれの試み，奮闘を一つの論文へと結実させて世に問おうとしております。お手に取っていただいた皆様には，どうぞ，これらを受け止めて叱咤激励してやっていただければと思います。また，私たち教員，スタッフも彼らにとってのよき先輩として，臨床，教育，研究に取り組む姿を示していきたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻いただきますようどうぞよろしくお願いいたします。